

令和2年度 病害虫発生予察情報

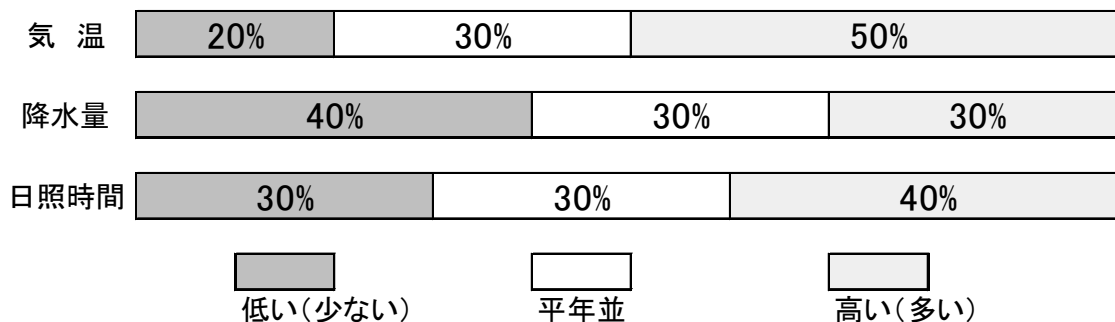
発生予報第6号（8月）

令和2年8月3日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	平年並～やや多い
		紋枯病	平年並～やや多い
		白葉枯病	少ない
		ニカメイチュウ	平年並
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	やや多い～多い
		トビイロウンカ	多い
		コブノメイガ	多い
		斑点米カメムシ類	平年並～やや多い
		ハスモンヨトウ	多い
		果樹	ダイズ
シンクイムシ類	平年並～やや多い		
ハダニ類	平年並		
ナシ	カメムシ類		多い
	うどんこ病		やや多い～多い
	カキミガ		平年並
カキ	カメムシ類	多い	
	ハスモンヨトウ	多い	
	野菜	アブラナ科野菜	ハスモンヨトウ

中国地方1か月予報(8月1日～8月31日・広島地方气象台7月30日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査(70ほ場)における葉いもちの発生ほ場率は8.6%(平年10.4%)、発病株率は1.1%(平年4.2%)と、平年に比べてやや少ない。
- ② 県内の一部でずり込み症状を呈する等の発病程度の高いほ場が見られ、全般の発生量は平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率は18.6%(平年14.6%)、発病株率は1.3%(平年2.2%)と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生(発病株での上位進展)にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県内常習発生地帯
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生を認めていない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(4) ニカメイチュウ(第2世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%(平年5.5%)、被害株率は0%(平年0.2%)であり、発生量は平年並みである。
- ② 7月第5半旬までの予察灯における誘殺数は7頭(平年45.4頭)と平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は48.0%(平年57.5%)、捕獲数は9.2頭/50株(平年9.4頭)であり、発生量は平年並みである。
- ② 7月第5半旬までの予察灯における誘殺数は30頭(平年122.5頭)と平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(6) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は96.0%(平年65.7%)、捕獲数は55.0頭/50株(平年27.0頭)であり、発生量は平年に比べてやや多い。
- ② 7月第5半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(7) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は34.0%(平年4.4%)、捕獲数は2.74頭/50株(平年0.16頭)であり、発生量は平年に比べて多い。
- ② 7月第5半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は平年に比べてやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。
注) 令和2年度 病害虫発生予察情報 注意報 第3号 参照。

(8) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は76.0%（平年10.5%）、被害株率は20.2%（平年0.9%）であり、発生量は平年に比べて多い。
 - ② 7月第5半旬までの予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は平年に比べてやや多い。
 - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。
- 注) 令和2年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第4号 参照。

(9) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬に出穂しているほ場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で発生ほ場率は61.1%（平年50.1%）、平均捕獲虫数は2.06頭/20回振り（平年2.98頭）であり、発生量は平年並みである。主要種はアカスジカスミカメであるが大型カメムシ類の捕獲数が多い。
 - ② 7月第5半旬までの予察灯への誘殺数は118頭（平年128.7頭）と平年並みである。
 - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。
- 注) 令和2年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第2号 参照。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 早い
発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月から現在までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で896頭（平年207.4頭）と多く、県西部で338頭（平年219.6頭）とやや多かった。
 - ② ダイズほ場での本種幼虫による被害は県東部では認めていないが、県西部では認めている。
 - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。
- 注) 令和2年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第3号 参照。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内ナシ（二十世紀）栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率9.1%（平年10.8%）であり、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（安来市、出雲市）でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数は、ともに平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(3) ハダニ類

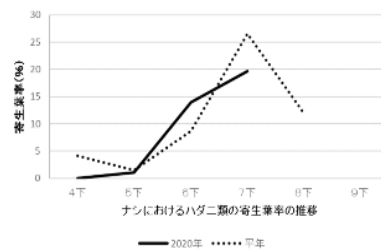
予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、寄生葉率19.7% (平年26.5%) であり、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。
- ③ クワオオハダニが見られるほ場も散見される。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 多い

予報の根拠

- ① 予察灯(出雲市)での7月6半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は2,031頭(平年880.3頭)と平年に比べて多い。
 - ② 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。
- 注) 令和2年度 病害虫発生予察情報 注意報 第2号 参照。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 やや多い~多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率8.6% (平年3.9%) であり、発生量は平年に比べて多い。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) カキミガ(第2世代)

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 第1世代幼虫による芽及び果実の被害は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 多い

予報の根拠

- ① 予察灯(出雲市)での7月6半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は2,031頭(平年880.3頭)と平年に比べて多い。
 - ② 7月下旬の巡回調査では、カキでの被害果率は0.5% (平年値1.6%) と平年並みである。
 - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。
- 注) 令和2年度 病害虫発生予察情報 注意報 第2号 参照。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 多い

予報の根拠

- ① 7月から現在までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で896頭（平成207.4頭と多く、県西部で338頭（平成219.6頭）とやや多かった。
 - ② 本種幼虫の発生は露地野菜（サトイモ等）では認めていないが、ダイズほ場において県西部で認めている。
 - ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。
- 注) 令和2年度 病害虫発生予察情報 技術情報 第3号 参照。

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数、最終有効年月）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

島根県病害虫防除所

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>